

会議・打合せ等記録

市 長	副 市 長	部 長	次 長	課 長 等	補 佐	係 長 等	担 当

報告日：令和6年6月27日

名 称	令和6年度第1回鹿沼市地域包括支援センター運営協議会
日 時	令和6年6月27日（木） 午後2時から3時30分
場 所	鹿沼市役所 2階 第1委員会室
出 席 者	委員 8名（別表のとおり） 事務局 11人 （亀山部長、松島課長、篠崎課長補佐、小林係長、吉村、飯島、藤田、堀田、笹本、齋藤、遠藤） 各地域包括支援センター管理者 6人 （東:小林、東部台:福田、北:小久保、中央:中村、南:伊藤、西:小倉）
内 容 及 び 結 果 等	1 開会 （「4 会長あいさつ」まで進行：松島課長） ・会議に先立ち委嘱状交付式を執り行うところだが、時間短縮のため、机上に置かせていただく。簡易的な交付となるがご理解願いたい。令和9年3月31日までの任期、よろしくお願いしたい。 ・終了まで約90分程度を目標としている。スムーズな議事の進行にご協力願いたい。 2 委員紹介 ・別紙名簿順に、松島課長が紹介。委員は着席のまま一礼。 ・欠席者は、大久保委員、黒岩委員、福田委員、杉田委員、吉井委員、須田委員、武藤委員。 ・鈴木委員は、鹿沼歯科医師会事務局の矢部代理人が出席。 3 会長及び副会長選出 ・会長は、星野充委員から福田英夫委員を会長とする提案があった。福田英夫委員は欠席だったが、会長に推薦された際は引き続き会長を務める旨の手紙を事前に預かっており、松島課長が代読した。当該提案を各委員に諮ったところ、委員全員の承認があったため、福田英夫委員を会長とすることと決した。 ・副会長は、福田英夫会長が西澤三好子委員を副会長に指名し、西澤三好子委員はこれを受諾したため、西澤三好子委員を副会長とすることと決した。 ・鹿沼市地域包括支援センター協議会は、福田英夫会長、西澤三好子副会長の体制で進める。 4 会長あいさつ ・福田英夫会長が欠席のため、代理として西澤三好子副会長があいさつ。 ・介護者と要介護者が年々増加しており、課題が多様化および複雑化していると感じる。行政や包括、地域における関係機関や関係者など多くの協力が必要な時

	代になってきている。 ・地域包括支援センター運営協議会は、これらの福祉に関する課題を共有、検討する良い機会。忌憚のない意見を期待している。
	5 議事（進行：西澤副会長）
	（１）地域包括支援センター運営協議会について（説明：事務局吉村主事） ・資料１（別紙資料１ページから３ページまで）に基づき、運営協議会の概要等、地域ケア推進会議との関連および地域ケアシステムに関する説明を行った。 （２）令和５年度実績報告について（説明：事務局小林係長） ・別冊 令和５年度鹿沼市地域包括支援センター年報により、令和５年度の実績報告に関する説明を行った。 ・令和５年度は、新型コロナウイルス感染症が５類に移行した時期で、域包括支援センターの事業は、多くの方が基礎疾患を持つ高齢者を対象とするため、感染対策を講じて事業を実施してきた。 ・２ページ：鹿沼市が実施する地域支援事業一覧について説明。鹿沼市は大きく分けて３つの事業「介護予防・日常生活支援総合事業」「包括的支援事業」「任意事業」を行っている。 ・１５ページ：「オ 介護予防運動教室「元気アップくらぶ」」について、高齢者が介護予防運動などの知識や技術を習得し、地域で日常的に実施することで、自分らしい自立した生活が長く続けられるよう１３ヶ所において「元気アップくらぶ」を実施。令和５年度は合計１９１回延べ２，４２７名が参加している。 ・１７ページ：「③ 地域介護予防活動支援事業」について、「元気アップくらぶ」において、介護予防運動指導を行うボランティア「KANUMA 元気アップ応援隊」養成講座も実施。令和５年度は６回１コースで１５名を養成した。令和５年度までに１１５名を養成し、２０３回延べ１，０１２名の高齢者が地域でボランティアとして介護予防運動指導を実施している。 また、ボランティアの力量向上を目指すため、フォローアップ研修の実施や令和５年度からは、ボランティアポイントを導入。 ・２０～２３ページ：「相談経路」「相談内容」「連絡・調整先」欄、数値が入っていない箇所が散見しているが、令和５年度から「その他」の欄を細分化し集計項目を変更したことから、数値が入っていない。 ・２８ページ：地域包括は、ケアマネジャーの業務に関し日頃の疑問や相談に応じたり、ケアマネジメントに必要な実践力の向上を目的に様々な研修会や事例検討を実施。近年の相談内容は、多問題化・複雑化しており、対応には高い専門性が求められている。引き続き、ケアマネジメントスキルの向上や多機関との連携を図っていきたい。 ・４２ページ：「イ 認知症サポーター養成事業」について、認知症基本法に基づ

き、「認知症になっても安心して暮らし続ける街づくり」に向け、認知症に関する正しい知識と理解を深め、認知症の方や家族を支える「認知症サポーター」を養成する講座を16回297人に対し実施。平成18年度からの累計で9,420名。

- ・43ページ：認知症サポーター養成講座修了者に対し、認知症に関する知識や対応について講義だけでなく、認知症カフェや介護事業所で認知症の方やご家族との交流を通し、より実際の支援活動につながるよう令和5年度より「認知症サポーターステップアップ講座」を開始。

(3) 令和6年度運営体制及び事業計画について（説明：事務局吉村主事）

- ・資料2（別紙資料1ページから12ページまで）に基づき、令和6年度の運営体制及び事業計画に関する説明を行った。

- ・1ページ：別紙資料のとおり

- ・3ページ：通所型サービスBの実施について。現在、85団体のほっとサロンのうち18団体が移行。

- ・4ページ（保健師業務計画）：「エンディングノート」及び「とちぎで在宅医療」パンフレットの配布と出前講座による啓発を行う。また、介護予防運動教室で運動指導を行うボランティアを要請し、住民主体による介護予防の推進を図る。

- ・5ページ（社会福祉士業務計画）：地域包括と支援策の検討や関係機関と協働・連携しながら支援、関係機関の職員を対象に研修会を実施。また、「鹿沼市介護者の会」では、事務局を担い、「認知症サロン 男性介護者の会」や「認知症について考える会（仮称）」など、認知症の人や家族の居場所づくりを拡充、認知症カフェ「いちごの花」の支援・協力を行う。また、既に認知症サポーターとなった人を対象に、認知症への理解を深め、実践的な対応を学ぶことができるステップアップ講座を開催する。認知症の人や家族への支援を行うチームオレンジの整備に取り組む。

- ・6ページ（主任介護支援専門員業務計画）：介護支援専門員のコミュニケーション技術や良好な人間関係を保つための対話術等の研修を実施。

- ・7ページ（鹿沼東地域包括支援センター独自事業）：「地域とのネットワーク」づくりに重点的に取り組む。地元企業との協働による講座等を開催する。既に「健康安全運転講座」を実施している。

- ・8ページ（鹿沼東部台地域包括支援センター独自事業）：地域講座などを開催し、高齢者の健康増進や居場所づくりに取り組んでいく。

- ・9ページ（鹿沼北地域包括支援センター独自事業）：民児協・老人会・ほっとサロンと継続的に連携を図る。また、担当地域内の事業所と協働し、スキルアップを図る。

・ 10 ページ（鹿沼中央地域包括支援センター独自事業）：昨年度に立ち上げた東大芦元気アップくらぶの後方支援を継続し、地域の高齢者が主体的に健康増進に取り組めるよう協力する。担当地区の各施設ケアマネジャーと事例検討会を4回開催し、ケアマネジャーのスキルアップを支援する。

・ 11 ページ（鹿沼南地域包括支援センター独自事業）：認知症の方、また、その家族が、「認知症カフェ」などの地域資源につながるができるよう、情報提供を行う。また、「認知症サポーター養成講座」を開催し、特に地元中学生に受講を呼び掛ける。

・ 12 ページ（鹿沼西地域包括支援センター独自事業）：実態訪問調査を実施。また、ほっとサロンや元気アップくらぶ等、継続して参加できるよう、参加の呼びかけや仕組みを工夫する。

（４）質疑・応答

小野委員：年報13ページのフレイル予防教室について。保険年金課との連携はいつからか。昨年度の年報には記載がなかった。

→藤田保健師：令和4年度から連携しているが、2カ所での試行段階だったため、令和4年度地域包括支援センター年報には記載していない。本格的な実行は令和5年度からである。

小野委員：年報を読んでみて、鹿沼市は様々な取り組みを行っている。他の自治体にフレイル予防教室について話したことがあり、鹿沼市は早速取り組んでいることに素晴らしいと感じた。

質問ではなく提案となるが、年報41～42ページの認知症の普及啓発や地域づくりについて。外見からわかりにくい認知症でも安心して地域で暮らせるようになるにはどうしたらよいかを考えていかなければならない。それを実現していくには、保健医療福祉の関係機関だけでなく、実際の生活に関わるような小売業者や公共機関などの理解も必要。そういった機関等も交えて、普及啓発を行っていくまちづくりも重要だと思う。事例として、岩手県滝沢市のスローショッピング、認知症カフェ関連だと、東京都町田市のDカフェのような日常的な普及啓発も効果的。

矢部代理人：保健師業務計画について。エンディングノートや出前講座は介護施設以外にも置いたり実施しているのか。また、介護予防運動教室で運動指導を行うボランティアはどのくらいいるのか。

→齋藤看護師：エンディングノートの配布は、介護施設のほかに各コミセンと図書館、社会福祉協議会等々には、10～20冊ぐらい常備している。不足した場合は、施設側から取りに来てもらっている。店にも少量置いたこともあり、すぐなくなるほどに興味をもっても

	らっている。令和５年度は１，０００部刷ったが足りず、コピーで対応するほどだった。また、出前講座については民生委員を集め、サロンなどで行った。内容は、パワーポイントを使用したエンディングノートの説明のほか、DVD視聴やゲーム形式など。 →藤田保健師：介護予防運動教室で運動指導を行うボランティアは、これまでに１１５名の方を養成した。１３カ所の各元気アップくらぶで介護予防運動指導を実施している。 星野委員：総合事業・生活支援体制整備事業事業計画について。訪問型サービスＡの利用者数が伸び悩んでいるが、年間の目標値は定めているのか。 →小林係長：現在の利用者数は４名と少ない。調整などで利用までに時間がかかるなどの課題が多いが、それらを検討しながら実績を伸ばしていきたい。明確には定めていないが、２桁台と考えている。 西澤副会長：市内で８６カ所のサロンがあるが、そういった場を利用して認知症サポーター養成講座などできないか。 →小林係長：令和５年度は、麻ノ葉ほっとサロンなどで講座を行った実績がある。今後もサポーターが増えるよう、各サロンに働きかけて、養成していきたいと考えている。
	６ 事例発表「鹿沼市の介護予防の取り組み～いつまでも住み慣れた地域で暮らすために～」（講話：事務局藤田保健師）
	・別紙事例発表資料のとおり ・矢部代理人：自治会の健康推進部を担っている。自治会の広報に掲載し、PRしてはどうか。 →藤田保健師：ぜひお願いしたい。
	７ 各委員からの自由意見（進行：松島課長）
	矢部代理人：地域ケア会議について。近年の処遇困難事例で特徴的なことはあるか。 →笹本主任介護支援専門員：例年、独居の認知症が多い。最近の傾向としては、本人や家族が精神的な課題を持っているケースが増えている。 →堀田社会福祉士：本人や家族の精神的な課題から、このままだと虐待へと上がってしまうリスクがある世帯も増えている。 →亀山部長：処遇困難事例等の相談に関して、今年度４月から保健福祉部厚生課で「福祉まるごと相談室」を立ち上げた。高齢者に限らず、多様な課題を抱える世帯等が出たときに、地域包括も含めて情報を各関係部署で共有し伴走支援していく取り組みを行っていく。現時点で

	40件ほどの相談があった。まだ試運転の段階で、来年度以降どのような対応をしていくか検証しながら進めていく予定。気軽に相談してほしい。 星野委員：地域包括の人材不足について。全国的に介護人材が不足しているが、中でも地域包括は特に業務量が多い。この先、10年20年と見据えて、人材確保にかかることで対応策などはあるのか。 →小林管理者（鹿沼東地域包括支援センター）： 地域包括の人員配置は、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員といった三職種を確保する要件があり、たとえ正看護師であっても地域ケア、地域保健等に関する経験のある看護師でないといけないだったりとするので、通常よりも人材確保が厳しい状況。ただし、大変な分やりがいはある職場。興味があったらぜひとも連絡してほしい。 →松島課長：今後、複雑化したケースが益々増えていくと思うので、市としても委託先のスキルを上げていったり、他部署との連携を強化していったりなど、一つ一つ課題をクリアしていきながら、鹿沼市というチームとしての対応を目指していきたい。		
	8 その他 ・令和6年度第2回鹿沼市地域包括支援センター運営協議会は、令和7年1月から2月頃を予定している。（説明：事務局吉村主事）		
	9 閉会（進行：松島課長） ・以上で、令和6年度第1回地域包括支援センター運営協議会を閉会する。		
配布資料	(1) 鹿沼市地域包括支援センター運営協議会設置要綱 (2) 令和6年度第1回鹿沼市地域包括支援センター運営協議会次第・名簿 (3) 資料1 地域包括支援センター運営協議会について (4) 別冊 令和5年度鹿沼市地域包括支援センター年報 (5) 資料2 令和6年度運営体制及び事業計画について (6) 事例発表資料「鹿沼市の介護予防の取り組み～いつまでも住み慣れた地域で暮らすために～」 (7) 配席図 (8) エンディングノート等パンフレット・チラシ類		
次回予定	令和7年1月から2月頃		
記 録 者	高齢福祉課地域包括ケア推進係 吉村		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況 （該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要）			
公開・非公開の別	公 開 ・ 非公開	（公開の場合）傍聴人数	1人